

過疎地域寺院の現状と課題

——石川県第二部（能登）管内アンケートをもとに——

河崎 俊宏

一、はじめに

今発表は、研究例会にて発表した過疎地域における寺院対策という大きなテーマを基に『現代宗教研究』第四十四号「中央教研過疎地域寺院PJアンケート報告」、同四十五号「本宗寺院における過疎対策、寺院活性化に向けた一考察」という二つの研究発表と共に、更に具体的地域を掘り下げた事例として調査研究し、この一連の流れの中で過疎地域寺院の活性化、また再興を目的とした発表であるところご理解頂きたいと願う。

四十四号「本教師の過疎に対する現状把握 対処の有無」

過疎地域 檀信徒とのより密着型の対処

都市地域 その地域に寺院の存在をアピール知らしめる取組

四十五号「限界集落の復活・活性化への取り組み」

発想と実行力から学ぶもの・生かせるものをレポートしたものであります。

「ソーシャル・インクルーシオン」社会包括性

社会福祉法人 仏子園の取り組み 真宗大谷派 西園寺

今回は、過疎地域寺院を取り巻く現状と今後の課題と題して、能登地方（石川県第二部宗務所）の寺院の現状から浮かび上がる課題とその対策への一考として進めたいと思う。今回の資料としてまとめたものは、第二十九回北陸教区教化研究会議「真の葬式仏教とは」～社会が求める僧侶を目指して～の中で参考資料に添付させて頂いた、石川県第二部宗務所（能登地方）管内における「講中」へのアンケート調査を実施し、そのアンケートの結果をまとめたものである。

このアンケート調査は、能登地方に於ける過疎地域並びに過疎地域寺院を取り巻く現状と、過疎地の檀信徒が抱える問題点や地域における法華文化・講中継承に関する課題を明確にし、本当に手遅れにならない内にその手立てや、対処を考える上でこの調査を行いまとめたものである。過疎地域寺院の対策・対応への地元の現状を知る第一歩である。

更に人口減少時代の到来、その影響による檀信徒の減少、さらに宗教離れという大きな社会問題は、今後の私たちにとって重要な課題と言える。その視点から、過疎地域寺院対策をはじめ、さらには首都圏や人口密集地寺院での人口減少に伴う檀家の減少など、今後宗門が直面する問題点への対策と対応という点から四十四号所報、四十五号所報、そして今回の発表が資料となればと願うものである。

そのような上でも、過疎地域寺院が人口減少という現在直面している問題や取り組みは、宗門として今後の対策を

考える上での考察の一つとなれはと思う。

- 一、はじめに
- 二、能登の法華信仰の特徴
- 三、能登の過疎現状について
- 四、能登の講中分布と、講の役割、形態
- 五、講中アンケート 講元用
- 六、講中アンケート 講員用
- 七、まとめ

アンケート実施に当たり

* 今回のアンケート調査は、羽咋地区を中心に（七尾地区の一部も含む）「講中」を中心に現状と課題を知る上で実施した。また、このアンケートは講元（世話人）用のアンケートと講中講員用のアンケートの二種類を実施した。

* アンケート調査を実施するにあたり、能登の講中四十三講中に送付、返信は三十講中。（返信率七〇%）

* アンケートの問いに対して様々なご意見を頂戴したが、今回の報告では多かった内容を中心に記載している。少数のご意見も資料としてまとめて記載してある。

*このアンケートは平成二十四年八月に実施したものである。

二、能登の法華信仰の特徴と背景（石川県第二部宗務所管内を以降「能登」と表記）

先ず、能登の地域性や特徴と過疎地域の法華信仰に於ける体系と過疎地域寺院の現状から進めていきたいと思う。そこで、大きく分けて三つに分類することが出来る。

能登の法華信仰の形態は大きく分けて奥能登地区、七尾地区、羽咋地区の三つに分類することが出来る。（管内寺院数は三十四ヶ寺、一教会、一結社を含み三十六ヶ寺）

奥能登地区

奥能登地区は寺院数八ヶ寺であり、奥能登の寺院体系の特徴は、北前船の寄港に法華の寺院多く点在。内浦という港町に多い。輪島市3ヶ寺点在、その内二ヶ寺は、羽咋地区と同じく本山妙成寺末寺が特徴である。奥能登全体としての「講中」は無く、輪島の一ヶ寺に鬼子母神講という名称だけが残っていた歴史がある。詳しい資料等は明治の大家の際にその寺院も焼失か

七尾地区

七尾地区の寺院数は、六ヶ寺＋一結社であり、その特徴は七尾城主畠山文化の影響で、京都との文化の繋がりが強い地区であった。越後の上杉謙信によって落城後、能登を治めた加賀藩祖である前田利家が、小丸山に小丸山城を築城その際、日蓮宗（法華）の寺を一地区に集め、法華谷と名。出城の役割を果たす地域となる。

他の二地域とは違い、この地域は京都本山の直末が多い。その為、町衆文化と関わりも強かった特徴もある。一例をあげると、桃山・江戸期の長谷川等伯はこの七尾出身であり、日蓮宗の檀徒でもあった。

「七尾講中」七尾市内六ヶ寺の関わりある町衆、檀信徒からなる「地域講中」

現在は、七尾講中は存在しない。但し、小丸山公園内にある日像菩薩の七尾日像菩薩銅像保存会として存続し、法要や年始やお盆廻りなどは「七尾講中」の旧講員の家々も各寺院（六ヶ寺）が廻る習慣は残っている。

羽咋地区

羽咋地の寺院は、能登寺院の分類の中では一番多い。その寺院数は、十八ヶ寺＋一教会で十九ヶ寺である。羽咋地区の寺院の特徴は、地元の本山妙成寺を中心とした本末関係の寺院が大半を占める。

この羽咋地区には各地域に「講中」が今も存在し、講中毎に毎月十二日、十三日を中心に講員の各家々をひと月ずつ廻り当番制で会処となって御講が行われている。ほぼ九割が講中のお参りや御講は講員によって行われている。

能登における法華の信仰や法華文化が脈々と受け継がれ、能登の法華信仰の基盤は「講」という存在が大きな役割を果たした様に思われる。このような信仰を基盤とする「講」の役割が、今後を考える上でも大きな課題となると考えられる。「講」の存在が能登法華の信仰を支えてきたと言っても過言ではない。しかし、その基盤が現代の様々な社会状況や人口減少、家庭環境の変化、家屋の建て替え、信仰の継承問題と重なり危機的状況へと進んでいる現状を直視しなければならない。

三、能登の過疎現状について

能登地方の過疎状況について見ておく必要がある。平成二十二年国勢調査、人口等基本集計結果（石川県関係分）によると、石川県能登地方の大正九年から平成二十二年までの地域別人口推移が見る事ができる。この資料から、大正九年一二九、〇三八人、昭和二十五年の一五七、八六〇人が最も多く、昭和三十年から減りはじめ、昭和五十五年一一七、七八七人、平成七年には、九六、三五六人と十万人を切り、平成二十二年には七五、四五八人（五五%減少）とある。能登地区は昭和三十年以降人口減少が今日も続いている。

石川県能登地方の過疎地域は、珠洲市・輪島市・七尾市・羽咋市・志賀町・穴水町・能登町である。（石川県過疎市町村マップ 資料）

四、能登の講中分布と講の役割、形態について

二、能登の法華信仰の特徴と重なる部分があります。

次に、過疎地域寺院を取り巻く現状と今後の課題を論ずるに能登の法華信仰が具体的にどのような形態で分布されているのかを見ておく必要がある。

奥能登地区

講中としての活動なし 寺単位での地区役割残る。輪番制にて年中行事役割

七尾地区

七尾講中存在していた。六ヶ寺檀信徒で構成（現在二講中存続）

月に御講を営む、月一度講中講員宅 宿交代制 寒修行も同行

時代と共に自宅の家族構成の変化により、家屋の建て替えによって講員一同が寄ってお参りすることが出来なくなった。

七尾日像菩薩銅像保存会の構成員が今も旧七尾講中。年に一度、小丸山公園の日像菩薩銅像にて法要を営み運営。講員による御講は、今までのような理由により、一度休まんかとのことから消滅。市外地の万行講中、高浜講中は講中としてからおじて残っている現状。

七尾講中の灯を消さぬようと、檀信徒の親睦や研修会などを実施

羽咋地区

羽咋地区には講中が現在も存在。四十一の講中が法華の信仰と文化を継承している。各講中は、毎月十二日御講実施し地域住民の信仰的繋がり深い。しかし、講員の高齢化等により様々な現状の課題が浮かびあがってきた。

講の八割〜九割は寺や住職が関与しなくても、講中の自主的組織で運営（講元・世話人）されている。しかし、1〜2割が寺、住職の関与なしでは運営できず。（講元・世話人不在）ここでも課題と対処の必要性がうかがえるのである。

能登の各講中 アンケート調査

平成 24 年 8 月実施

アンケート集計報告 KM用紙（講元・代表者用）

（43 発送中 30 返信 返信回答率 70%）

問 1、講中名をご記入下さい。

（ ） 講中

問 2、講中に所属する世帯数と人数をご記入下さい。

約（ ） 軒 約（ ） 人位

◇アンケート集計

講中所属軒数 約733軒・約1,651人

問 3、講中が行っている行事などありましたらご記入下さい。

例 12 日御講など *複数回答可

毎月（ ）・（ ）

年間（ ）・（ ）

◇アンケート集計

毎月平均 1回

（1 講中3か月に1回実施）

年間平均 8回

（* 2講中:現在休止中、1講中:解散）

問 4、講中のお参りや行事には何人程が参加ですか？

約（ ） 人位

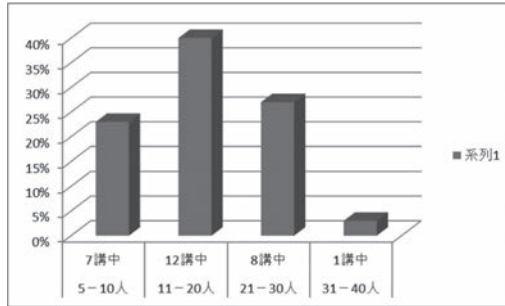
◇アンケート集計

5~10人 7講中 23%

11~20人 12講中 40%

21~30人 8講中 27%

31~40人 1講中 3%

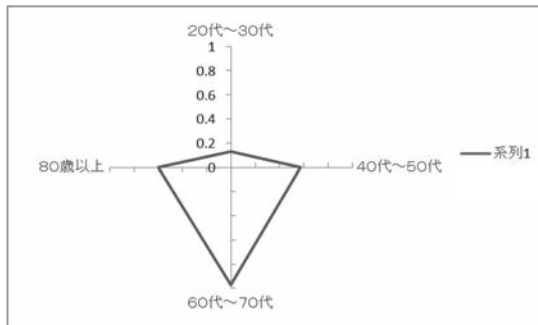


問5、参加の皆さんの年齢層に該当する箇所にお印を付けて下さい。*複数回答可

- () 20代~30代 () 40代~50代
 () 60代~70代 () 80代以上

◇アンケート集計

20代~30代 4講中 13%
40代~50代 17講中 57%
60代~70代 29講中 97%
80代以上 18講中 60%

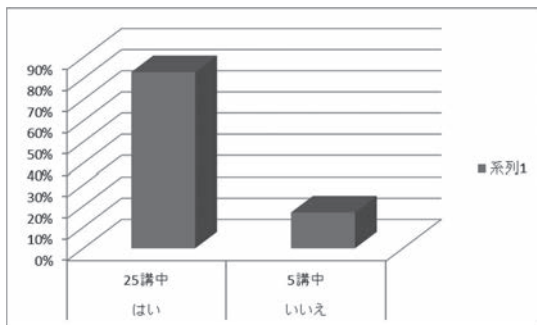


問6、講演、世話人などの次世代（後継者）の心配はありますか？

- はい ・ いいえ

◇アンケート集計

はい 25講中 83%
いいえ 5講中 17%



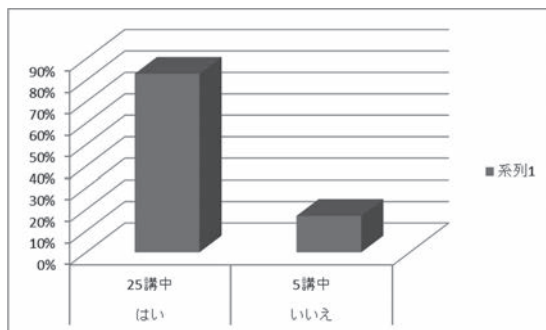
問7、今後の講中の存続について講元（代表者）として心配ですか？

はい ・ いいえ

◇アンケート集計

はい 25講中 83%

いいえ 5講中 17%



問8、心配に思われる理由は何ですか？

◇アンケート集計 () 内は重複回答数を表す

◆問7にて「はい」の意見

- ・ 後継者問題
- ・ **参加者の高齢化と後継不在(4)**
- ・ お寺と講中、心理的には分離している。
- ・ 御講が無くなる。
- ・ 御講や世話方の引き受け者がいない。(2)

- ・若い世代に関心がなく、お寺に対する寄付行為に疑問を持ち、お寺は檀家で守るという自覚が薄れている。
- ・少子高齢化に伴う次世代数の減少
- ・若い世代の信仰心の薄れ、関心度の薄れ。(4)
- ・日蓮宗であっても講中に入らない方がいます。
- ・高齢化による参加者減少(6)
- ・寺院離れ、講中離れ(3)
- ・今後10年位は、今の現状で存続可能、それ以降講中が減少すると思われる。
- ・若い世代の参加が少ない。
- ・宗教に興味を持たない。
- ・講中の高齢化と一人暮らしの世帯が多くなり、昔のように親と同居していないので日蓮宗のしきたりとかを身に感じていない、段々と講中離れが来ると思う。
- ・同居数の減少(3)
- ・若い世代は県外に在住
- ・世代交代で若い人が引き継ぐ意思なし

◆問7「いいえ」の意見

- ・現在何も心配していない

問9、講中としてその対策案や実施している事がありましたらご記入下さい。

◇アンケート集計

- ・毎月順番に御講を実施し、御講銭（会費500円／毎月）を集めているので皆さん出席しています。
- ・講中として、お寺を改築するにあたり、今年3月から積立金を実施しています。
- ・講中でアンケート調査を実施したことがあるが、具体的な計画や行動の実施がない。
- ・対策はしていない
- ・なるべく講を盛り上げるようにはしている。出席したら何か得るものがあるように。
- ・（休眠中の講元様より）できれば1か月に1度は集会所にでも集まってやりたいと思う。
- ・高齢者の家を廻って健康状態を寺院や講中に連絡している。
- ・御講には各世帯必ず参加するように定例化している。
高齢者に代わって若い世代の人にも代わって参加するようにしている。

- ・私の元気な限り（現在63歳）私の知っている限りの事、二本ばちでの太鼓の打ち方など教えていきたいと思っている。
- ・数年前から年1回ですが、講中としてバスで日像様の史跡を訪ねて羽咋、七尾地区を参拝するなどの対策を講じている。
また、お祖師様題目（2月6日～3月上）冬季期間集中して講宿の尽きるまで実施してお経や仏事作法を教わっている。
- ・総代になって下さる方が、なかなかいません。やむをえず年寄りの私（女性）が世話役をしているところです。若い男性はまだ在職中の為世話役を出来ないと申しております。
- ・仕方がないね・・・というのが現実と思います。私の世代までも・・・。
- ・対策はありませんが、機会があれば他の講中と歌題目の練習や講話を聞きたいと思います。
- ・御講が3か月に1回になってしまった。まだ半年に1回でもいいのではという方々がおられます。
- ・寺で年間4回程度お題目の練習をしています（青年壮年世代）

問10、最後に、日蓮宗や石川県第2部宗務所や能登の寺院に対する要望、ご意見などありましたらご遠慮なくお書き下さい。

◇アンケート集計

- ・**住職の皆さん、各集落の御講に積極的に参加し日蓮聖人の教えを説いてください、広めて下さい。また、お経の読み方や鐘の打ち方などお参りの意味等を教えてください。**
各地で行っている御講を支援してほしいです。
- ・**お寺からのお金に関する要望が多すぎる、現実若い人たちの寺離れが進んでいるなかで考えさせられる。**
- ・日蓮宗の組織、第2部宗務所の範囲、寺院の数、檀家の数等、新聞で広報してほしい。
- ・事業依頼等は毎月の12日御講までにご連絡くださいます様をお願いします。
- ・**参詣者を待つ姿勢から、呼び込む積極的姿勢への転換**
- ・**50代以下の年齢層へのアプローチを積極的に**
- ・**全国で寺院離れを防ぐためのモデルになる寺院の有無確認とその対策の把握**
- ・少年少女為の修養道場に息子をボランティアで参加させ、少しでも日蓮宗や石川県第2部宗務所の手助けになればと思っております。
- ・**石川県第2部檀信徒協議会への出席が少ないので各寺院のご住職から出席の呼びかけをしてほしい。また、各寺院のご住職には法事などがある際に仏事作法**

やお経の意義や御遺文等わかりやすく説明してほしい。

- ・格言は色々ありますが、真の人づくりは大変難しいと思います。次世代の人づくりの為に指導をお願いいたします。
- ・年々お参りの人が少なくなって大変です。しかし、日蓮宗の信仰の深さには感心致します。一人でも多く参加してほしいと思っています。ですがどうしたらいいか、わかりません。
- ・老齢で車にも乗れません、参加したいと思っても不参加になってしまいます。申し訳なく思っております。
- ・お寺がもっと皆さんの身近になるといいと思います。
- ・今度は能登方面の団参を希望しておりますので、その節は宜しく願います。

講中の講員用

- * ご協力お願い申し上げます、アンケートは無記名で結構です。
- * アンケートご記入後、講元（代表者）へご提出をお願いします。

Z-1 アンケート

（講中所属軒数 7 3 3 軒中 返信回答軒数 3 8 3 軒 回答率 5 2 %）

問 1、講中名をご記入下さい。

（ ）講中

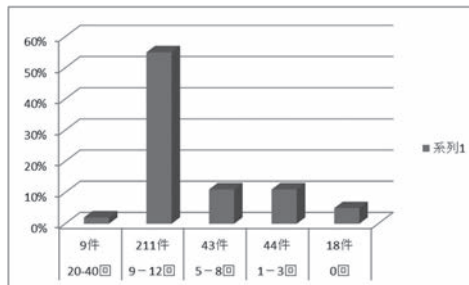
問 2、講中のお参りは月々・年に何回ありますか？また参加できるのはどれくらいありますか？

月に（ ）回 中（ ）回出席

年に（ ）回 中（ ）回出席

◇アンケート集計

* 講中 1 件当たりの年間平均参加回数			
20～40回	9件	2%	
9～12回	211件	55%	
5～8回	43件	11%	
1～3回	44件	11%	
0回	18件	5%	

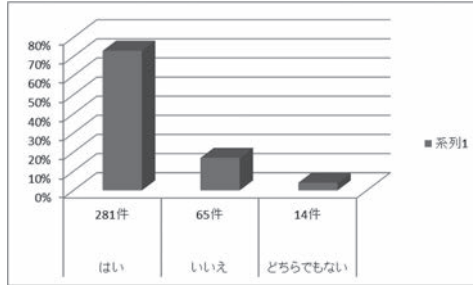


問 3、講中はあなたにとって、大切な存在ですか？

はい ・ いいえ

◇アンケート集計

はい	281件	73%
いいえ	65件	17%
どちらともいえない	14件	4%



問4、その理由をご記入下さい。

◇アンケート集計 () 内は重複回答

◆問3「はい」の意見

- ・先祖の企画された仏様との触れ合いの場を大切にしたい。
しかし、職業等の多様化により厳しい状況にある。
継続がおもいやられる。
- ・**地域や講中の交流の場(コミュニティ)として大切(30)**
 - ・どこかに所属してたいから
 - ・わからないことを教えてくれる場(5)
- ・**絆を深める・心ひとつになれる(21)**
- ・**信仰の場である、先祖への感謝、先祖と触れ合う喜び(19)**
 - ・先祖から継承された大切なもの(8)
- ・**信行の為(お経が覚えられる、太鼓、仏事作法等)(16)**
 - ・日蓮宗の本山の近くに生まれ誇りに思う
 - ・お寺を護持する核になる人を育てる場、お寺への協力体制(5)
 - ・信仰の継承、次世代への繋ぐため(11)
- ・**信仰的安心の場、自身の心を育て、高めてくれる(16)**
 - ・葬送儀礼の繋がり、助け合いの場(会)、(12)
 - ・家にお参り来ていただいたお返し(2)
 - ・法華経のため

◆問3「いいえ」の意見

- ・**高齢化による負担、夜道の危険性(3)**
 - ・宗教心の希薄化(2)
- ・**交際費と維持、参加が重荷(3)**
- ・**仕事を持ちながらの御講は負担大きい(3)**
家族間で代わりに参りにも行ってくれない。

- ・ 毎日の生活には直接関係ない、法事は家庭で済ませているから、わざわざ講中にお参りしてもらう必要はない。
- ・ 日常、「弔辞」以外は講中の存在感はない。
- ・ 高齢により除名され寂しさがある。
- ・ 講中の意味は、同じ宗派の仲間の集まりと私自身思っています。集落のお寺さんが存続していれば、講中というしくみも不要のものと考えます。

・ **講中に属さなくても、**

その人の信仰があればいいのではないのでしょうか？(3)

・ **あまり意識がない(3)**

- ・ 有意義ではないが、続けたいと思う人は続けていくと思う。
- ・ 時代に合わない
- ・ 葬儀は近年セレモニー（会場）が主体となり、講中に特段の必要性を感じない。地域における講中の役割は葬儀に関する事が主となっていると思う。
- ・ あって良し、無くてよし。
- ・ 参加していない
- ・ 何事にも時間がかかる、無い方が良い。
- ・ お経の意味が解らない。

◆ 問3に「どちらともいえない」の意見

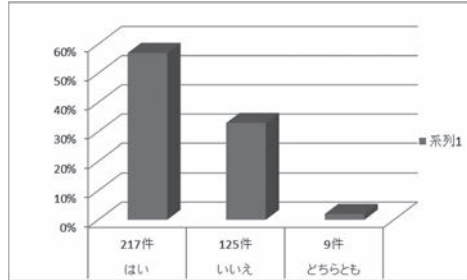
- ・ 前の代から受け継いだものだから、出席している。
- ・ 今のところ時間と心に余裕がないから、夜間に講中のお参りに参加するのは負担になる。
- ・ 高齢による身体的理由
- ・ 親たちの時代と状況が違ってきた。
- ・ 葬儀場が沢山できて、すべてを行ってくれるため
- ・ 日々の生活で手一杯。
- ・ 仕事の関係で講中への出席は出来ない。

問5、今後、講中の存続について心配ですか？

はい ・ いいえ

◇ アンケート集計

はい	217件	57%
いいえ	125件	33%
どちらともいえない	9件	2%



問6、その理由をご記入下さい。

◇アンケート集計

◆問5にて「はい」の理由

- ・後継者がいない(34)
- ・若い人の参加が少ない、参加したくても、仕事で参加できない(27)
- ・若い人の信仰心の薄さ、信仰の継承が難しい(25)
- ・高齢の為(46)
 - ・他の講中との協力が少ない
- ・メリットがない、やめた方が良い(10)
 - ・個人で信仰していればいいのでは
 - ・心配だが続けてほしい(3)
 - ・日蓮宗のお膝元で歴史を刻んできたことを思うと意味深いものを感じます
 - ・若い者はなかなかなじめない
 - ・ゆとりがない
 - ・負担が大きい
 - ・住職との会話、講中との会話を望みます(2)
- ・次の世代の育成が必要(15)
 - ・宗門も祖師の原点に戻り、檀家と共にある認識を持って寺院活動をすべき
 - ・夜の御講は出にくい(2)
 - ・一旦講中のお参りが無くなると、その復活は難しく熱心に活動をしようとするればその弊害は大きい
 - ・法華経講座がほしい

◆問5にて「いいえ」の理由

- ・寺集落ですから
- ・特に心配していない(3)
- ・自然に任せる(4)

・体制がしっかりしているから(2)

- ・有意義ではないが、続けたい人が続けていくと思う
- ・存続は望まない
- ・講中は弱まる、しかし家庭の信仰はある
- ・仏様の導きを信ずる
- ・まだまだ熱心な方がいる
- ・10年は持つ
- ・リーダ的な人が呼びかけたり、活動を提案したりしているから
- ・楽しい場所である
- ・自身で手を合わせていればよい
- ・皆で助け合っていくから

問7、講中の存続や信仰継承は、今後大きな課題となってきます。

次の世代への信仰の継承や人づくりの為に、講中やあなたの家で取り組んでいる具体的なものがありましたご記入下さい。

- ・講中 ()
- ・家 ()

◇アンケート集計

◆講中の取り組み

- ・講中の在り方を今後話し合い、考えるべき時期である(2)
- ・今ある講中のお参りをする(27)
- ・講中の団結・絆を強めて、協力し合っている(6)
 - ・講中に奉仕することは、自分の為にもなる
 - ・講中でバスにてミニ参拝を実施して研修会を実施している
 - ・お経を習いたい、信心を深める研修を願っている
 - ・高題目の練習をはじめた
 - ・宗教の説明、講の歴史や意義を配布してほしい
 - ・菩提寺の為にも重要
 - ・講中のお参り出かけたとき、合掌で挨拶を行っている

◆家での取り組み

- ・朝お仏壇への水、仏飯を具える(9)
- ・息子家族が帰省した時は、皆でお仏壇やお墓参りをしている。正月も一緒にお参りに出かける(6)
- ・朝夕のお勤め(46)
 - ・寺と仏壇は守ってほしいと言っている(2)
 - ・先祖の命日(月命日も)は家族でお参りをする(12)

・先祖に感謝し、深く敬っている 先祖の苦勞話を伝えている(7)

- ・頂き物は必ず仏壇に供える(4)
- ・家で信仰について話し合おうと感じた

・お参りする際に、孫を誘う様にしている(5)

- ・出かけたり、出先から戻ったら、(仕事も)必ず仏壇にお参りする(2)
- ・宗教の自由 強制していない
- ・まずお寺がしっかりして下さい
- ・お寺の果たすべき役割は何なのかを考えてほしい(2)
- ・御講やお寺の行事への参加(4)
- ・お寺への協力
- ・自分自身の信行を深めるため、題目をあげている(2)
- ・法事が今後できないかも若い夫婦が言っている(布施への不信感)
- ・日々合掌を心掛けている
- ・出かける時は、気持ちよく送り出し、私も気持ちよく送り出して頂いてお
ります

・若い家族と同居でないのもしていない(10)

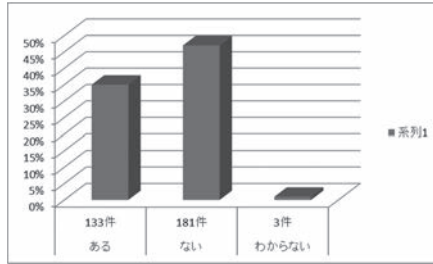
- ・必ず1日に1回は、孫たちに仏壇に手を合わせさせている
- ・子供を修養道場に参加させてから、仏教の話をして共育できるものが見
えて来た。
- ・家族の平和を祈っている
- ・息子や孫への信仰の継承を考え、お参りごとや仏壇へのお参りも背中を見
せるように意識している(2)
- ・お寺の護持には金銭的な事が一番の問題となりますが、檀家にはその分担
の責任もあると考えます。それは、公明正大でつましさを実感できる会
計処理があつての事と思います。(現在が悪いと言っているのではありません)

問8、講中やご家庭で日常的な信仰・信心の決まり事などありますか？

ある ・ ない

◇アンケート集計

ある	133件	35%
ない	181件	47%
わからない	3件	1%



問9、それはどのような事ですか？

例：必ず合掌で挨拶をする、朝家族でお勤めを行うなど

◇アンケート集計

◆問8で「ある」と答えた方

- ・朝お仏壇への水、花、仏飯を具える(22)
- ・朝夕のお勤め(48)
- ・合掌でのあいさつ(19)
 - ・寺と仏壇は守ってほしいと言っている
- ・先祖の命日(月命日も)は家族でお参りする(8)
 - ・先祖に感謝し、深く敬っている 喜びを感じる
- ・頂き物は必ず仏壇に供える(7)
 - ・お参りする際に、孫を誘う様にしている(3)
 - ・出かけたり、出先から戻ったら、(仕事も)必ず仏壇にお参りする(2)
 - ・御講やお寺の行事への参加(3)
 - ・命日は精進で過ごす(2)
 - ・月一回の御講を必ずお参りする(3)
 - ・親が無くなったので、親がやっていた事をやっているだけ
 - ・お盆には親戚が集う
 - ・朝のお勤めが終わってから、家族で朝食をとる
 - ・お上人さんに月経に来ていただいている

◆問8で「ない」と答えた方

- ・各自で、仏壇前でお参りしている
- ・朝家族でお勤めをする(7)
 - ・頂き物は仏壇に供える(2)
- ・朝、水やご飯を供える(4)
 - ・食事の際はお題目を唱えてから頂く

- ・食事の際、お題目を唱えてから食事をしていたが、若い夫婦からやめてくれと言われて今は行っていない
- ・命日のお勤めは欠かさない（２）
- ・子供たちに仏間を通る際は合掌するように言っている
- ・先祖を大事にしなければならないのは個々でもっている、必ず朝のお勤めとか合掌とかという形はなくてもいいと思う

問１０、最後に石川県第２部宗務所や能登の寺院に対する要望やご意見がありましたらお書き下さい。

◇アンケート集計

- ・家を継ぐという意識が薄れて来ていますので、墓を管理するのが難しくなって来ています。納骨堂やマンション形式の墓を考える時が来ているのではないのでしょうか
- ・お寺の歴史を聞く機会を作る事、佐渡から京都までの日像様の足跡を訪問する機会がほしい。第２部宗務所だけでなく、第１部さんとも手を取り歴史ある土地であること説明して心構えを持っていただくような機会をつくってください。
- ・以前の機関紙『辻説法』『さだるま和尚の質問箱』が小冊子になればいいと思います。
- ・以前、護国寺で勉強会がありました。無いのが非常に残念です、法華経講座をやってください。（４）
- ・石川県第２部宗務所各寺院の特徴的取組みと、今後の檀信徒に対する教導指針等をお聞きする機会を希望します。
- ・多くの人を呼び込むよりも、多少人数は少なくとも確実に人材の育成を考えるべきではないか。
- ・若い人たちの寺離れに対して対処を
- ・お経の解説よりも現実的な話でないと若者はついて来ない
- ・能登の寺院めぐりをバスを仕立てて実行すればいいと思う
- ・講中のお参りは、夜道が危険の為夜でなく日中行ってはどうか
- ・講中のお参りは２か月に１回ではどうか
- ・石川県第２部宗務所？知りませんでした（２）
- ・民主的な運営
- ・お寺と檀家の絆を大切に
- ・若いお坊さん頑張って（２）
- ・人材の育成に力をそそぐべき、青少年・壮年後継人の育成（５）
- ・千ヶ寺参りではありませんが、お寺巡りがしたいです。同じ市内にいてもお参りしたことのないお寺が沢山あります

- ・色々な悩みを聞いて下さるお上人、お寺で会ってください（４）
- ・寺院ごとにお経、唱題の太鼓の打ち方が違う。高題目も違うので石川県第2部宗務所として統一性は考えられないのか
- ・広報は、「辻説法」を充実させると同時に、紙の媒体からインターネットへ、これらの充実にか点を置くべきと考えます
- ・寺院の奥様も接客サービスの研修を受けるべき
- ・高齢化、不況の長期化により浄財を集めるのが大変。布教により檀信徒数を増加するか、現行の檀信徒の中から大企業家を育成するか
- ・講中の皆様には、いつもお世話になっております。ありがたいと思っております、私はまだ仕事をしております、仕事を辞めたら講中の仕事をさせて頂きたいと思っております。講中は、私達にとってとっても大切な存在です
- ・講中でのお参りの仕方、導師のやり方を指導して下さい
- ・お参り以外の働きかけがあってほしい（震災ボランティア、復興ボランティアなど）
- ・地方から来ても、家族が宿泊できるような道場を設けてほしい。仏様との縁を近づける意味で
- ・地区やお寺にきれいな花など見る場所を、パワースポット紹介など
- ・人々の心の渇きを癒す何かが必要
- ・現在の宗務所は活発に活動しているように思う
- ・お寺がもっと気軽に行けるようになればいいと思う
- ・お寺の敷居が高くなっているような気がする

七、まとめ

以上のアンケートの結果から、過疎地域寺院を取り巻く現状は、高齢化と地域の信仰母体となった「講」の後継課題、存続の危機が浮かび上がったといえる。

また、この地域は同居数が多いが、次世代の後継者が仕事の都合により講の運営自体に関わることが出来ない現状も読み取ることが出来た。講を取り巻く地域性を生かしながら、抜本的改革が必要。家庭内信仰は大半が大切であるとの認識は強いので、まだまだ過疎地においても信仰の継続可能性や「講」における信仰の継承、さらにはその地域の寺院存続や、再興の可能性が残されている面も読み取ることが出来る。

と同時にこのまま何もせず、無策のままでは講の継続や信仰の継承、過疎地における寺院の存続に大変深刻かつ危機的状况下におかれていることを読み取ることが出来る。

講の形態そのものが、時代に即応した御講の持ち方など体制を模索し手だてを整える必要がある。それが現代に相応した教化ではなからうか。また、すでに高齢や後継者のいない所には、次なる対応を整えることが必要と感ずる。安心して最後はお寺に任せる事ができるという事も立派な対応策であり教化であると考ええる。

更には、早急に寺院に対して対処を求めている講中に対して、何の手立てもなく、「講中は檀信徒の自主的な組織であり我々に関わらなくて良いとする」だけでなく、軌道に乗るまでの間、少しばかり講中に手助けをして自主的運営に至る様に信仰的面を大切にしながら指導していくことが必要と思う。「我々が直接的に関わる必要性は無い、無くなる講中にはなくなればいい」という考えは、決して何も変わらない。寧ろ無策ほど時代の様々な社会問題に埋もれ、過疎地そのものの中で寺院は埋没していくこととなるのであろう。

これらを通して能登法華の信仰は何百年と地元の信仰母体、講により支えられて寺院を運営し今日に至っていないことを忘れてはならない。

講中の中には、信仰継承をはじめ講中の存続をも安心して任せる事ができるといった講中も存在する。その講中は、一、信仰 二、地域信仰の形態から連帯感が強い 三、寺院との関わりも日常的に深いなどの背景があり、他の講とは違い独自の企画の運営方法などで活性化を図っている。この違いは何であるのか。他の講中での課題や問題点は、その講の運営方法などから対応と対策のヒントとなる一面を持っている。

今回は、『講』というものにポイント当てて進めてきたが、これらは講に限ったものではないはずである。「何とかなるだろう」、「私の時代は何とかのまますみそうだ」、「何から手を付けたらいいのかわからない」、「誰かがやってくれるだろう」、「何か指示があるだろう」という考えからは、この厳しい過疎の現状下、寺院を取り巻く現状は決して前には進まないという事である。課題を調査し、課題が明確になったなら出来ることから始めてみる。繰り返し、また手を変え繰り返し返しチャレンジしていく姿勢に過疎地域寺院を取り巻く地域住人やその周囲に広がり、過疎地域寺院の明日はあるのだと思う。

その影響は必ず寺院や自分達にも帰ってくるであろう。このことは、都市や人口密集地における人口減少時代の寺院運営に関連して言える事であろう。